

第3回庄内町立図書館協議会 会議録

- 1 開催日時：平成26年2月20日（木）18時15分～20時45分
- 2 開催場所：庄内町立図書館 二階自習室
- 3 出席委員：小野寺姫、池田孝一、金内淳、工藤佳奈恵、舘林由美子、小野寺博
- 4 欠席委員：日野淳
- 5 事務局：図書館長、主査、主事補

進行：主事補

1 開会 主事補

2 あいさつ

○課長

今年度庄内町子ども読書活動推進計画の第二次計画を作成した。学校地域支援事業の活用などもあり、読書環境も良く読書量も増やしている。一方図書館では、子どもたちが借りる冊数が落ち込んでいるが、これは光を注ぐ交付金により学校図書館の本が増えたことも関係している。今後も子ども読書の推進に努めたい。

○館長あいさつ

今年度庄内町子ども読書活動推進計画の第一次の成果や第二次計画についても一応整ったのでご報告申し上げたい。図書館も書架が高いとか館内の声が響き渡るとか課題は多いが、できるところから整備したいと考えている。記念館も町民ギャラリー的に活用しながら、庄内総合高校芸術展も開催し、地域の方から足を向けてもらい、図書利用にもつなげていきたいと思っている。

3 報告事項

- (1) 第二次「庄内町子ども読書活動推進計画」の策定について
- (2) 庄内町立図書館設置規則及び管理条例施行規則の一部を改正する規則(案)の制定について
《事務局説明》

○(1)の資料の内容説明

第一次における「庄内町子ども読書活動推進計画」実施3年間の成果と課題についても説明した。

○(2)の資料の内容説明

《報告の内容》

(委員) 規則第10条2の箇所で、施設名を記載している部分の表記はわかりにくいように感じるがどうか。

(事務局) 条例上の規定によりこの表記にしたところである。

4 協議事項

- (1)平成25年度庄内町立図書館・内藤秀因水彩画記念館における事業総括について

《事務局説明》

○(1)の資料の内容説明

《協議の内容》

(委員長) 事業総括や利用状況など説明いただいたことについて、皆様から質問、意見をいただきたい。

《協議の内容》

(委員) 資料区分利用統計の資料で、利用資格区分や貸出の分類が記載してあり、この図書館を利用する対象や必要としているものがわかっていい。団体冊数・児童や絵本が突出していて、やはりマンガ・コミックや一般の個人のところで文学など利用状況がみえている。禁帯図書の関係だが、他の図書館では貸出できるものが、ここでは貸出禁止になっていて使いづらいので、検討してほしい。時々鶴岡の図書館に行くが、毎日の利用者が30人から40人位だったりする。図書館の建設についてだが、図書館の性格を考え精査してほしい。独立の館を作るのはどうかなと思う。役場庁舎もこれから建設になるという話も聞くが、その庁舎内に図書室を作ってはどうか。大きな図書館のミニ図書館であってはいけない。ここの図書館の特色を考えないといけないと思う。

(委員長) 図書館の建設については、いろんな角度から考えていくことが必要だと思う。

(課長) 資料の事業総括の欄のひまわりっ子広場のところで事業名と対象の区分の記載がおかしいので直すこと。又、利用者の減少で課題のみ記載しているが、50代のところでは、若干増えていることにも着目したい。利用資格別資料区分別利用統計では、平成25年1月末の時点と昨年度と一昨年度は3月末の数字を記載しているが、これでは比較できず、利用者が下げ止まりの傾向にあるのかどうか判断できない。毎年、1月末で合せ資料をととのえること。「年齢別貸出統計の資料で、6歳から9歳の区分で利用低下の状況について記載しているが、0歳から6歳の減少の考察なども必要である。

(事務局) ひまわりっ子広場の関係は、後日訂正する。資料作成する際に、会議時の開催日に合わせ、比較できる数字で出すようにする。

(委員) 図書館については、新しく建設しようとしてこれまでやってきた。役場庁舎は建て替えるべきだが、庁舎と図書館を併設できる可能性はあるのか。

(課長) 庁舎の建設はこれから進めようとして出てきているが、併設の話は聞いていない。保健センターのこともあるし、庁舎に複合施設として図書館をとという考えは出ていない。図書館をどうするか、全部建て替えるべきなのか、併設なのか、できるなら増改築なのか、検討しなければと思っている。

(館長) これまで図書館建設整備検討委員会や図書館建設場所の検討などで話し合ってきた。今の時代に図書館単館だけでは無駄で、町づくりの展望の中で、複合の視点で考えてみる必要がある。これらが話し合いの土俵にのらないと建設は進まない。

(委員) 今役場庁舎の建設があるとすれば、いいタイミングなはず。教育委員会で働きかけるチャンス逃さないでほしい。

(館長) 図書館の増改築という話もあるが、耐震構造のこととか、内藤秀因水彩画記念館の部分

とのつなぎ目とか考えると容易でない。改修も含め考え方の転換も含め、町づくりの視点で考えることが重要である。

(委員長) このほかに、図書館の内部を見学してご意見ありますか。

(委員) この図書館の中を見ると、蔵書がたくさんありすぎて、図書の整理も、本を探しに行くのも職員が非常に時間がかかり大変だという感じを受けた。本棚もゆらゆらしているし、地震がきたら、どうかなと心配な感じである。

(委員) 外観から見ると、とても格好いい図書館だと思っていたが、内部を見ると自分が図書館のことを何も知らないのだと感じた。古い本が大切にされすぎて、新しい本が犠牲になっているように思う。昔からの新聞や白書とか現物が多く、資料の大切さもわかるけども、場所がないのだったら、もっと必要なものとそうでないものを分ける作業が必要なのではと思う。

(委員) 古いものをとっておく気持ちが十分わかる。鶴岡の図書館の閉架に入ったことがあるが、とても整理されていて広くて整っていた。ここの閉架もていねいに整理しようという苦労を感じた。

(委員) 貸出禁止の本も、一度表示なるとずっとそのまま貸出禁止のままである。この貸出禁止についての考え方を整理してほしい。

(事務局) 図書館では、古い資料も現在図書の除籍基準のことや寄贈関係の書籍についてなど、判断すべき事項が多い。職員体制も大変であるが、今後できることから取りかかしていきたい。

(館長) 貸出禁止についても、他より情報を集めながら判断基準を作らないといけませんが、現在司書が1名なので対応するのに間に合わないのが実状である。

(委員) この判断基準などは、じっくり集中してやらないとできない。鶴岡や酒田の図書館から情報を集積して時間をかけても取り組んでほしい。

(事務局) 寄贈図書も貸出禁止の資料も、図書館は、利用していただくことが大事だと思っている。

(委員) 学校図書館でも環境整備のボランティアがいて助かっている。この図書館も環境整備ボランティアを募集したらいいのではないか。

(館長) ボランティアの方に作業を任せっきりというわけにはいかず、現在の図書館では、作業するスペースもなく、この職員体制ではボランティアに対応することは無理だと考えている。

(委員) 自分だったら、図書館でできる手伝いはしたいと思う。ボランティアには賛成である。

(事務局) これまでも図書館ボランティアの体制を整えたいと思ってきたが、なかなか難しい状況にある。

(委員) 新刊図書の基準はどうなっているのか。

(事務局) シリーズものはそのまま継続、著名な作家の本やリクエストに応える本、農業や「郷土資料など庄内町に関係あるものなども購入している。また専門の業者である図書館流通センターの新刊全点案内より、図書館で読んでほしいという本は自動的に納品される。リクエストのほかに相互貸借でも利用者の要望に沿って対応している。

(委員) 寄贈図書のコーナーも、鍵がかかっていたりするので、自由に読むことはできない。自由に見られるようにしてほしい。

(館長) 寄贈の本も、本棚で見れるようにしたいと考えている。

(委員長) その他に何かありませんか。

(2)平成 26 年度庄内町立図書館運営計画(案)について

(3)平成 26 年度庄内町立図書館協議会年間計画(案)について

(4)平成 26 年度庄内町内藤秀因水彩画記念館運営計画(案)について

《事務局説明》

○(2)(3)(4)の資料の内容説明

《協議の内容》

(委員) 記念館でまた阿部智幸先生の絵画展は予定はないですか。

(館長) 阿部先生は現在とても忙しくご活躍されている。以前絵画展のときには、全部阿部先生のご負担で絵画展をしていただいた。こちらから絵画展をお願いするのは予算面でも無理があるが、可能かどうか探っていきたい。

(委員長) みなさんが、いろいろな立場で誌面の資料でしか知ることができないこともご意見いただきありがとうございます。これからも委員の皆様が、何らかの形で図書館に応援できればと思う。今日は大変お疲れ様でした。

(5)その他

特になし

5 その他

特になし

6 閉会 主事補